

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】平成 26 年 11 月 6 日 (2014.11.6)

【公開番号】特開 2013-161282 (P2013-161282A)
 【公開日】平成 25 年 8 月 19 日 (2013.8.19)
 【年通号数】公開・登録公報 2013-044
 【出願番号】特願 2012-23078 (P2012-23078)
 【国際特許分類】

G 0 6 F 3/041 (2006.01)

B 3 2 B 38/00 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 3/041 3 3 0 A

B 3 2 B 31/12

G 0 6 F 3/041 3 5 0 C

【手続補正書】
 【提出日】平成 26 年 9 月 22 日 (2014.9.22)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

フィルム基材の一方の側に、第 1 透明導電体層と第 1 銅層とをスパッタ法により順次積層し、得られた第 1 積層体をロール状に巻き取って第 1 ロールとする第 1 工程と、

前記第 1 ロールを大気中で 30 時間以上保管して、前記第 1 銅層の表面に、酸化銅 (I) を含有する酸化皮膜層を形成する第 2 工程と、

前記第 1 ロールを巻き戻しながら、前記フィルム基材の他方の側に、第 2 透明導電体層と第 2 銅層とをスパッタ法により順次積層し、得られた第 2 積層体をロール状に巻き取って第 2 ロールとする第 3 工程とを含む、

ことを特徴とする、導電性フィルムロールの製造方法。

【請求項 2】

前記第 2 工程において、前記第 1 ロールを大気中で 36 時間～180 時間保管することを特徴とする、請求項 1 記載の導電性フィルムロールの製造方法。

【請求項 3】

前記第 2 工程において、厚み 1 nm～15 nm の酸化皮膜層が形成されることを特徴とする、請求項 1 記載の導電性フィルムロールの製造方法。

【請求項 4】

前記酸化皮膜層は、酸化銅 (I) を 50 重量%以上含有することを特徴とする、請求項 1 記載の導電性フィルムロールの製造方法。

【請求項 5】

前記酸化皮膜層は、銅、酸化銅 (I)、酸化銅 (II)、炭酸銅及び水酸化銅を含む組成物からなることを特徴とする、請求項 1 記載の導電性フィルムロールの製造方法。